

2024/06/09

説教題：義認：成熟と忍耐

OICの皆さん、お早うございます。

義認とは、永遠の赦しを買うためにイエスが十字架上で死なれたことに基づいて、私たちはもはや罪がなく、義とされるという神の宣言です。今日、私たちは、信仰によって義とされたクリスチャンが、神のご計画の中で人生を終える力を与えられていることを、パウロがどのように説明しているか、さらに詳しく見ていきます。

6月2日のメッセージの最後の一節から始めましょう：成熟と自己否定 パウロは、キリスト者の成熟というテーマの最後を、ローマの信者のための祈りと励ましで締めくくっています（ローマ 15章 13節）：「どうか、望みの神が、あなたがたを信仰によるすべての喜びと平和をもって満たし、**聖霊の力によって望みにあふれさせてくださいますように。**」アナニヤの手で聖霊の満たしを受けたパウロ個人の体験的キリスト教は、もちろん、ローマのすべてのクリスチャンにこの大きな力を与えたいと願っていました。

（ローマ 15章 14節）：「私の兄弟たちよ。あなたがた自身が善意にあふれ、すべての知恵に満たされ、また互いに訓戒し合うことができることを、この私は確信しています。」

「善意に満ちている」という表現には、いくつかの解釈や説明が必要です。（マルコ 10章 17 - 18節）でイエスが「金持ちの若者」に立ち向かったとき、私たちは「善」という言葉を定義しました：「イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄って、御前にひざまずいて、尋ねた。「尊い先生。永遠のいのちを自分のものとして受けるためには、私は何をしたらよいのでしょうか。」18 イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『尊い』と言うのですか。尊い方は、神おひとりのほかには、だれもありません。」使徒パウロがここで述べている「善意に満ちた」という意味は、ギリシャ語新約聖書で明らかにされています：**ἀγαθωσύνη** (agathōsynē) で、善、徳、恩恵という意味です。イエスは「金持ちの若者」が非常に裕福であったので、その精神的価値と物質的価値とを比較することを目的としましたが、パウロはローマ人を**高潔な**クリスチャンとして称賛しているのです。次の（ローマ 15章 14節）の句の中で：「あらゆる知識に満たされ、互いに戒め合うことができる」は、使徒がローマの教会（実際にはいくつかのホーム・チャーチ）を信頼していることを示しています。パウロはローマのクリスチャンたちを信頼していました。その信頼は、使徒ヨハネが手紙の宛先とした諸教会に対する信頼に近かったかもしれません。彼は（1ヨハネ 2章 26 - 27節）の中で言います：「私は、あなたがたを惑わそうとする人たちについて以上のことを書いて来ました。27 あなたがたのばあいは、キリストから受けた注ぎの油があなたがたのうちにとどまっています。それで、だれからも教えを受ける必要がありません。彼の油がすべてのことについてあなたがたを教

えるように、——その教えは真理であって偽りではありません。——また、その油があなたがたに教えたとおりに、あなたがたはキリストのうちにとどまるのです。」

ここで使徒ヨハネは、これらのクリスチャンたちが聖霊によって受けた賜物を熟知しています。彼の確信は、ギリシャ語新約聖書 Greek New Testament/ MOUNCE でいうところの「油注ぎ」にありました：*χρῖσμα (chrisma)*, (クリスマ) は、霊的特権を受ける際の油注ぎを意味します。代名詞の you を 10 回繰り返すことで、**(1 ヨハネ 2 章 26-27 節)** で「あなた方を欺こうとしている者たちは失敗するだろう。」と言いつつ、彼はこう言って彼らを励ましました。もちろん、ヨハネは彼らの偉大な師であり、教師でしたが、彼らは聖霊による油注ぎを受け、他の教師たちの前でもイエスの御言葉を生き生きと真実なものとしていました。**(ローマ 15 章 14 節)** でも、パウロはローマのクリスチャンたちに同じような励ましを述べている：「私の兄弟たちよ。あなたがた自身が善意にあふれ、すべての知恵に満たされ、また互いに訓戒し合うことができることを、この私は確信しています。」彼は、聖書の箇所を分かち合い（聖書研究）、兄弟愛の精神で互いに教え合い、正し合うこと、つまり戒めることを勧めました。アンプリファイド・バイブルはこの意味を**(ローマ 15 章 14 節/AMPC)** でよく説明しています：「個人的には、兄弟たちよ、あなたがたは善意に富み、あらゆる（霊的な）知識に満ち、互いに戒め合い、助言し合い、指導し合うことができることを、私は確信している。」

次に、パウロはこのローマ人への手紙の中で、自分の困難で強い教えをほとんど申し訳なさそうに語っています**(ローマ 15 章 15-16 節)**：「ただ私が所々、かなり大胆に書いたのは、あなたがたにもう一度思い起こしてもらったためでした。**16** それも私が、異邦人のためにキリスト・イエスの仕え人となるために、神から恵みをいただいているからです。私は神の福音をもって、祭司の務めを果たしています。それは異邦人を、聖霊によって聖なるものとされた、神に受け入れられる供え物とするためです。」

パウロは、もし神の言葉を単純にしすぎたり、挑戦することがなかったりしたら、祭司として神の福音を宣べ伝えるという、神から与えられた恵みに背くことになることを知っていました。

パウロは、大胆な文章について自分自身を戒めていたのです。これはまた、パウロが弟子のテモテに諭し、教えたことでもあります。**(2 テモテ 2 章 15 節)**：「あなたは熟練した者、すなわち、真理のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を神にささげるよう、努め励みなさい。」パウロはローマのクリスチャンの信仰に「挑戦」したかったのですが、彼らの「確信」をくじくことはしませんでした。ところで、OIC の聖徒たちの皆さん、ローマ人への手紙はあなた方にとってもそうあるべきです。神の言葉を宣べ伝えるパウロは、ここ OIC で聖書を教え、宣べ伝えるように召された人々にも同じように挑戦しているのです。

次にパウロは弱気になり、**(ローマ 15 章 17 - 19 節)** で神からの賜物に対する自信を表明します：「それで、神に仕えることに関して、私はキリスト・イエスにあって誇りを持っているのです。**18** 私は、キリストが異邦人を従順にならせるため、この私を用いて成し遂げてくださったこと以外に、何かを話そうなどとはしません。キリストは、ことばと行ないにより、

19 また、しるしと不思議をなす力により、さらにまた、御霊の力によって、それを成し遂げてくださいました。その結果、私はエルサレムから始めて、ずっと回ってイルリコに至るまで、キリストの福音をくまなく伝えました。」

これは自惚れや自己満足の自慢話ではなく、他の人々が彼の言葉を真剣に聞いて信じるように、彼の資格の事実を語っているのです。（ローマ 15 章 20-21 節）で、彼は自分の高い召しについてさらに詳しく語っています：「このように、私は、他人の土台の上に建てないように、キリストの御名がまだ語られていない所に福音を宣べ伝えることを切に求めたのです。21 それは、こう書いてあるとおりです。「彼のことを伝えられなかった人々が見るようになり、聞いたことのなかった人々が悟るようになる。」

彼らは、まだ告げられなかったことを見、まだ聞いたこともないことを悟るからだ。：  
{パウロはイザヤ書 52. 15 から聖書を引用しました。}

伝道と教会を建て上げることに関する彼の戦略や計画は、完全に彼自身の考えによるものではありませんでした。私が6月2日にOICで説教したように、キリストに出会った最初の日から、アナニヤがパウロを訪問したのを見ています：

アナニヤは、後にパウロと呼ばれるようになったサウロが「イエスに従う者」を殺そうとしていることを知っていたからです。（使徒 9 章 15-19 節）にあるように、アナニヤは出かけて行ってパウロを見つけました：「しかし、主はこう言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。」使徒パウロは、初期の伝道活動の間、ユダヤ教の会堂で福音を宣べ伝えることに固執していましたが、やがて、（使徒 13 章 46-47 節）にあるように、イエスがダマスコに戻ってアナニヤに語ったことを知りしかし、主はこう言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。また：「そこでパウロとバルナバは、はっきりとこう宣言した。「神のことばは、まずあなたがたに語られなければならなかったのです。しかし、あなたがたはそれを拒んで、自分自身を永遠のいのちにふさわしくない者と決めたのです。見なさい。私たちは、これからは異邦人のほうへ向かいます。47 なぜなら、主は私たちに、こう命じておられるからです。『わたしはあなたを立てて、異邦人の光とした。あなたが地の果てまでも救いをもたらすためである。』」 {そして、パウロはイザヤ 42 章 6 節と 49 章 6 節から神の預言的な言葉を引用します}

「私はあなたを異邦人の光として置いた。」

「地の果てまで救いをもたらすために。」

それから、パウロは（ローマ 15 章 22 節）で説明します：「そういうわけで、私は、あなたがたのところに行くのを幾度も妨げられましたが、」この言葉には2つの理由があります。一つ目は、神が私たちにイエスのために行うよう求めておられることの中で、私たちの人間的な心が戦略を掘り下げたり詳述したりすることを許しておられるということです。パウロは、大都市の中心部に焦点を当てた自分の戦略にとどまりました。しかしまた、他の人々がまだキリストと十字架につけられたキリストを宣べ伝えていない中心地だけでした。ローマはローマ皇帝によって征服された文明世界の異邦人の首都であった

ので、異邦人がそこにいることはわかっていました。しかし、悪魔は特に異邦人に福音を聞かせたくなかったのです。サタンにも戦略があり、パウロを阻止するためにユダヤ人の子供達をあおっていたのです。しかし悪魔は、異教徒の社会は自分のものだと考えていたに違いないのです。私は、1世紀の異教の異邦人たちを、現在の日本と正確に比較して見えています。神道、仏教、迷信は、伝統に逆らうことを恐れ、神の御言葉に反対しています。このため、数百万人の日本人の99%がサタンに属しています！いずれの場合も、神は当時も今も、悪魔の暗闇からイエスのもとに召された人々を救うために、別の考えと止めることのできない計画を持っておられます。

さて、パウロは次の宣教旅行の計画を（ローマ 15 章 23-24 節）で明らかにしています：「今は、もうこの地方には私の働くべき所がなくなりましたし、また、イスパニヤに行くばあいは、あなたがたのところに立ち寄ることを多年希望していましたので、24——というのは、途中あなたがたに会い、まず、しばらくの間あなたがたとともにいて心を満たされてから、あなたがたに送られ、そこへ行きたいと望んでいるからです。——」パウロの戦略は神に喜ばれました。このことは、罪のためのキリストのいけにえを信じる信仰、すなわち義認の賜物を受けた異邦人の数を見れば明らかです。神は、スペインに向かう途中でローマを訪れるというパウロの計画を変更しようとしていました。そして、次のエルサレムへの航海は（ローマ 15 章 25-29 節）にあります：「ですが、今は、聖徒たちに奉仕するためにエルサレムへ行こうとしています。26 それは、マケドニヤとアカヤでは、喜んでエルサレムの聖徒たちの中の貧しい人たちのために醸金することにしたからです。27 彼らは確かに喜んでそれをしたのですが、同時にまた、その人々に対してはその義務があるのです。異邦人は霊的なことでは、その人々からもらいものをしたのですから、物質的な物をもって彼らに奉仕すべきです。28 それで、私はこのことを済ませ、彼らにこの実を確かに渡してから、あなたがたのところを通過してイスパニヤに行くことにします。29 あなたがたのところに行くときは、キリストの満ちあふれる祝福をもって行くことと信じています。」

私は OIC でイエスの羊を養うために、聖書を一節一節、釈義するのが大好きです。しかし、ローマ人への手紙 15 章を学ぶ私たちの例外として、使徒の働きの中のパウロの生涯の詳細から、私たち全員にとって力強い教訓があります。（ローマ 15 章 28-29 節）には、パウロの召命がパウロの計画に反して成就した詳細が記されています。使徒の働きによれば、パウロは囚人として鎖につながれてローマに来ることになります。これらの聖句は、西暦 30 年の聖霊降臨の日に教会が誕生した母教会に経済的援助をもたらすために、パウロがエルサレムに戻ったことを物語っています。{これらの日付は Beck, *The Holy Bible, An American Translation* によるものです。} パウロがエルサレムに戻った後、サタンは再びユダヤ人の子供達をあおって、パウロを殺そうと中傷し、うそをつきました。このことを（使徒 21 章 27 - 31 節）で見ることが出来ます；「ところが、その七日がほとんど終わろうとしていたころ、アジヤから来たユダヤ人たちは、パウロが宮にいるのを見ると、全群衆をあおりたて、彼に手をかけて、28 こう叫んだ。「イスラエルの人々。手を貸してください。この男は、この民と、律法と、この場所に逆らうことを、

至る所ですべての人に教えている者です。そのうえ、ギリシヤ人を宮の中に連れ込んで、この神聖な場所をけがしています。」**29** 彼らは前にエペソ人トロピモが町でパウロといっしょにいるのを見かけたので、パウロが彼を宮に連れ込んだのだと思ったのである。**30** そこで町中が大騒ぎになり、人々は殺到してパウロを捕え、宮の外へ引きずり出した。そして、ただちに宮の門が閉じられた。**31** 彼らがパウロを殺そうとしていたとき、エルサレム中が混乱状態に陥っているという報告が、ローマ軍の千人隊長に届いた。」

パウロはローマの千人隊長の目に好意的に映るでしょう。パウロが正真正銘のローマ市民であることを恐れてのことでもあります。しかしまた、その千人隊長は明らかに、正義を守る人格を持っていました。これは、もう一人のローマ総督ポンテオ・ピラトの前での主の裁判とは異なります。**(ヨハネ 18 章 38 節)** において：「ピラトはイエスに言った。「真理とは何ですか。」彼はこう言ってから、またユダヤ人たちのところに出て行って、彼らに言った。「私は、あの人には罪を認めません。」しかし、地が造られる前から神が計画されていたように、ピラトは正義のために行動を起こそうとせず、イエスはユダヤ人を喜ばせるためにピラトの権威の下で十字架につけられました。

パウロにとっては、ローマ市民権の特権が、パウロをカイザリアに導き、2年以上にわたって、ユダヤ人たちが確証のない告発をする模擬裁判を受けさせることになりました。総督フェストはパウロをエルサレムに送り返そうとしていました。これは、彼を待ち伏せしていたユダヤ人たちによって、道中で殺される可能性が高いことを意味します。パウロは **(使徒 25 章 11-12 節)** ではっきり言います：「もし私が悪いことをして、死罪に当たることをしたのであれば、私は死をのがれようとはしません。しかし、この人たちが私を訴えていることに一つも根拠がないとすれば、だれも私を彼らに引き渡すことはできません。私はカイザルに上訴します。」**12** そのとき、フェストは陪席の者たちと協議したうえで、こう答えた。「あなたはカイザルに上訴したのだから、カイザルのもとへ行きなさい。」

**(使徒の働き 21 章から 28 章)** には、この驚くべき宣教の旅の詳細が記されているので、ぜひ読んでください。私は、パウロが予期していた計画に反したこの旅について触れましたが、しかし、神の主権的な力と力によって福音を伝え、イエスの御名に栄光を帰したいというパウロの心の願いが究極的に成就したことを、私たち全員が見ることができることを願っています。

この点については、時系列で短くまとめてみようと思います：

- ・ エルサレム、ペンテコステ、西暦 56 年 (使徒 21-23 章) : ユダヤ人たちがパウロに対して暴動を起こしたため、パウロの計画は狂いそうになった。彼はローマの司令官 (トリビューン) に逮捕され、200 人のローマ兵とともにカイザリアへ密かに脱出するなど、彼の保護に努めた。私たちの愛に満ちた救い主、すべての励ましを神は、パウロを忘れなかった。エルサレムでローマの捕虜となっていたとき、イエスはパウロの前に現れ、パウロの宣教を止めさせようとする脅迫と、ローマに行く計画の完了に対して語られた **(使徒 23 章 11 節)** : 「その夜、主がパウロのそばに立って、「勇気を出しなさい。あなたは、エルサレムでわたしのことをあかししたように、ローマでもあかしをしなければならない。」と言われた。」

- ・ カイザリア、西暦 56-58 年（使徒言行録 24 章）： フェリクス総督とアグリッパ王の前で福音を証言するパウロの裁判。
- ・ カイザリア、西暦 58 年（使徒言行録 25-26 章）： パウロは、ユダヤ人が議会と総督の心をつかんでいることに気づき、カイザルに訴える。パウロは自分の訴えと救いの証言をアグリッパ王に示す。王はパウロのローマへの上訴を支持し、決定を下さない。
- ・ カイサラと地中海、西暦 58 年（使徒言行録 27 章）： パウロがローマに向かう途中、マルタの岩場で台風（ユーラクロン：北東の嵐）に遭い、船が破壊される。イエスは奇跡的に船上のすべての人々を救われた。ユーラクロン：北東の嵐
- ・ マルタからローマへ、西暦 58-59 年（使徒言行録 28 章）： パウロはローマ兵に大変気に入られており、彼らは奇跡が自分たちを救ったことを知っていた。彼らのリーダーであるユリウスは、パウロの市民権と人柄を伝えたのだろう。（使徒 28 章 16 節・ Beck）：「私たちがローマにはいると、パウロは番兵付きで自分だけの家に住むことが許された。」（使徒 28 章 30 - 31 節）に見られるように、彼の宣教の奇跡は続いた。「こうしてパウロは満二年の間、自費で借りた家に住み、たずねて来る人たちをみな迎えて、31 大胆に、少しも妨げられることなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。」

それゆえ、パウロの人生に作用する神の霊が、この試練と試練の年月を、（箴言 16 章 9 節）の人物に合うようにしたことがわかる。：「人は心に自分の道を思い巡らす。しかし、その人の歩みを確かなものにするのは主である。」先に述べたように、主はパウロが彼の人生に対する神の呼びかけの中で創造性を発揮したことを喜ばれました。私たちクリスチャンは、自分の逆境は罪から来るものだと考えることがあまりにも多いのです。聖霊の仕事は、あなたに罪を確信させることです。聖霊はあなたを理解させます。いわば、晴れの日も雨の日も、聖霊はこの働きをしてくださるのです。！

パウロが偉大な信仰の賜物を持っていたことは知っています。しかし、それは彼を神格化する言い訳にはなりません。彼は、すべてのクリスチャンがそうであるように、恵みによって救われた罪人だったのです。では、私たちはこの歴史、すなわち鎖につながれた囚人としての彼の使命の完成から何を学ぶことができるのでしょうか？ パウロの人生におけるこの部分の重要な箇所は、エルサレムに戻る途中の（使徒 21 章 10-13 節）にあります。：「幾日かそこに滞在していると、アガボという預言者がユダヤから下って来た。11 彼は私たちのところに来て、パウロの帯を取り、自分の両手と両足を縛って、  
「『この帯の持ち主は、エルサレムでユダヤ人に、こんなふうに縛られ、異邦人の手に渡される。』と聖霊がお告げになっています。」と言った。12 私たちはこれを聞いて、土地の人たちといっしょになって、パウロに、エルサレムには上らないよう頼んだ。13 するとパウロは、「あなたがたは、泣いたり、私の心をくじいたりして、いったい何をしているのですか。私は、主イエスの御名のためなら、エルサレムで縛られることばかりでなく、死ぬことさえも覚悟しています。」と答えた。」

神が私たち一人一人に与えてくださった信仰のレベルがどのようなものであれ、私たちは永遠を踏まえて生きるか死ぬかというパウロの姿勢を持つことができます。パウロは、

イエスが個人的に語ったことが非常に重要であることを覚えていました。彼はまた、神が聖書の中で語っておられることも知っていました。私は、OIC 水曜聖書研究会の参加者たちに、「あなたの人生に神の召しを見つける」ことを教えながら、この重要な真理を思い出させてきました。サタンは彼を捕まえようとしていたが、パウロは霊的戦いの大部分は神が言われたことを思い出すことだと知っていました。思い出してください、これはサタンがエデンの園でイブに語った時（アダムはイブのそばで、黙っていたのですが）、アダムとイブが神の言葉を無視したことです。このことを忘れていたことを思い出してください。（創世記 3 章 1 節/KJ21）：蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」

また、パウロは（ローマ 8 章 28 節）で教えたことを実践しました：「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」

パウロは、エルサレムでパウロが逮捕されると言ったアガボの預言を信じました。これはローマへの神の召命の敗北のように思えましたが、パウロは投獄されてもイエスを信じていました。すべてのことは、サタンの活動や努力は、クリスチャンの人生における神の完全な御心を妨げないことを意味します。パウロは（エペソ 6 章 12 節）で教えているように、悪魔の力に対して祈りました：「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」パウロは、サタンが彼を殺せないことを知っていました。彼の死は神の完全な御心……永遠に主イエスと共にあるためです。

パウロはまた、自分の身を守るために、ローマ市民権という人間的な手段を使用しました。私たちが試みるべき人間的な努力が失敗するとき、イエスは今も忠実に奇跡を行います。パウロの計画が失敗に終わったことを示す最後の言葉として、パウロがスペインに行ったという聖書外の有力な証拠があります。そこにはパウロが建てたと信じられている教会があります。ほとんどの学者は、ローマ人の穏やかな軟禁が彼をスペインに行かせたと考えています。その後、彼はローマに戻ると言った通りにもどりました。パウロは、逃亡しようとしなかったこと、船員、囚人仲間、ローマ兵を気遣ったことで、特に大きな尊敬と名誉を得ていました。そして、現皇帝の気まぐれと思われるが、神の勅命に従って処刑されることになりました。神に栄光あれ。

**神は私たちに心の望みを与えてくださる！これは（詩篇 37 篇 3-5 節）より：**

**3** 主に信頼して善を行なえ。地に住み、誠実を養え。

**4** 主をおのれの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。

**5** あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。

神はパウロに、誰も宣べ伝えていないところでイエスを宣べ伝えるようにと、彼の心の願いを与えられました。クリスチャンが「神の人生への召命」にできる限り従うとき、イエスはその人の心に願いを込め、遅かれ早かれ、その願いをかなえてくださいます。イエスはまた、私たちの配偶者であり夫として、私たちへの愛を示すのがお好きで、私たちが神の支配に服従したとき、ごく一時的な祝福を与えてくださいます。私にとって

は、経済的に非常に困窮していたときに、親友がボストン・レッドソックスの試合に招待してくれたサプライズがそうでした。あなたにとっては？ しかし覚えておいてほしいのは、神があなたを愛しているのは、あなたが「霊的」なことをしているときだけではないということです。私たちがすることはすべてイエスとともにあるのですから、すべてが「霊的」なことなのです！

したがってパウロの人生そのものが、**義認**の主要なテーマ、焦点なのである：**成熟と忍耐** 私は、ローマ人への手紙のこの章と、その周辺のパウロの人生における歴史的出来事から、パウロの忍耐を引き出そうと試みました。パウロは、神に見放されそうになったとき、敵のために忍耐しました。ローマの囚人となっても、あらゆる場所で証しをし、宣教しました。パウロは、自分に残された機会であれば、どんなものであれ、みことばと行いでキリストを伝えました。パウロは自分の召命のために働き続け、神はローマに連行された鎖につながれた囚人として、神の方法と時に彼の心の望みを与えました。私たちが耐え忍び、パウロが**(使徒 14 章 22 節)**で指示したように、**信仰を持ち続けるなら**、神は私たちの心に、神が叶えようと決心された望みを置かれる、あるいは与えてくださるといふのは本当だと思います。

私は、パウロがイエスのために偉大で忠実な使徒であったために、一部のクリスチャンが、恩寵によって救われた罪人であるパウロを「ほとんど」神格化しているのを見てきました！これは彼らの信仰が小さいためであり、あるいは単に、神がご自分の選択と意志によって、クリスチャンに大きな恵みを与えることができることを理解していないためです。多くの場合、私たちクリスチャンは、パウロと自分を比べるあまり、神のために偉大で大きなことに挑戦することを恐れています。しかしパウロは、自分自身がイエスから学んだように、自分から学んで欲しいと弟子たちに次のように語っています。**(1 コリント 11 章 1 節/J.B. フィリップス)**：「私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見ならってください。」私がいつも言っているのは、「神の内に、偉大な人はいない。」ということです。これはパウロの言葉です。聖書は言います！

祈りましょう！

#### 参考文献

AMPC - Amplified Bible Classic, Copyright © 1954, 1958, 1962, 1964, 1965, 1987 by The Lockman Foundation, La Habra, CA 90631. All rights reserved.

Beck - *The Holy Bible, An American Translation* by William F. Beck. Lake Publishing Company, Osage Beach, Missouri.

J.B. Phillips -

KJ21- 21st Century King James Version (KJ21) - Copyright © 1994 by Deuel Enterprises, Inc.

NASB1995 - New American Standard Bible®, Copyright © 1960, 1971, 1977, 1995 by The Lockman Foundation. All rights reserved.